# 宮城大学 後援会報 Vol.36

発　行
平成23年12月30日

発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL 022（377）8381

編　集
宮城大学後援会事務局


## 後援会主催事業 乙武洋匡氏講演会

## みんなちがって当たり前 自分を認めて生きよう

今年で12回目を迎えた主催事業講演会が、大学祭と併催の10月9日大和キャンパス講堂で行われました。今回は、大学時代に発表し大ベストセラーとなった『五体不満足』（講談社）の著者、乙武洋匡さんを講師にお迎えしました。テーマは「みんなちがって、みんないい」。会場には過去最高の千人を超える聴衆が詰め掛けました。

講演では、大学卒業後にスポーツライター、テレビキャスターなどを経て、昨年の3月まで3年間小学校教師を務め、私生活では二児の父となったことなどが、エピソードを交えながらテンポ良く紹介されました。また、水の飲み方を実演して見せるなど、サービス精神旺盛な一面をのぞかせ、会場を沸かせました。

話は教師をめざしたきっかけへと及びます。メディアを通して伝えられる犯罪の低年齢化を目の当たりして、周りの大人の責任について深く考えさせられたと言います。また、五体不満足でも、自分の人生に充実感を持って過ごせるのは、両親が自己肯定感を育んでくれたからと自身のことを振り返りました。次は自分が子供たちのために力を尽くす番と考え、教育現場に飛び込んでいったとのことです。

乙武さんは、子どもの周りにいる大人として、教師としての役目を三つ挙げました。「その子の一番の良さを見つけてあげる」「その子の良さをほめて自信を付けてあげる」さらに教師へはもう一つ「その子の良さをクラスの他の子に伝える」。それは、子どもたち一人一人が自分の弱さと向き合い、受け入れ、自分を認めることができたら、もっと生き生きと生きることができると思うからと話しました。伝え続けたメッセージ「みんなちがって、みんないい」。乙武さんは子どもたちがそれをしっかり受け取ってくれたと感じたそうです。

話は東日本大震災にも触れ、自分が出来る支援は被災地の方々に元気を与えることと考え、何度も被災地を訪れたと言います。その一つ、プロ野球「楽天イーグルス」の始球式で乙武さんがボールを投げた時の映像が上映されると、会場から改めて感動の拍手が沸き起こりました。

「みんなちがって、みんないい」童話作家金子みすゞさんの作品の一節と紹介し、子どもの世界に限らず、社会全体のテーマとして、これからもさまざまな活動を通して一人でも多くの人にこのメッセージを伝えていきたいと結びました。

最後の質疑応答ではユーモア溢れる的確な回答に、乙武さんの話術と知性が光りました。中でも「前に進むその原動力は何から」との問いに「これまでの『恩返し』の気持ちと『使命感』です」と答える凛とした表情が印象的でした。

（理事　中野三郎）

▲「メッセージを伝え続けることは、この体を与えてもらった僕の使命」と語る乙武氏

▲講堂は満員、スクリーン聴講の第2会場も設けられる

## 鎮魂と復興へのエール 400人の「第九」キャンパスに響く

第九を歌って元気になろう！合唱団による、東日本大震災の犠牲者への鎮魂と復興の思いを込めたコンサートが、12月18日大和キャンパス中央階大をステージに行われました。

合唱団は地域の方々や宮城大学の学生・教職員などで結成され、演奏は宮城大学管弦楽団他。指揮は渡部克彦氏が行い、この日のために9月から練習を重ねてきました。キャンパスに響く歌声に観客からは大きな拍手が送られました。

〈合唱に参加して〉

私にとって、オーケストラをバックにベートーベンの「第九」を歌うことは憧れでした。

合唱団は歌うことが大好きな人たちでも、「第九」を歌うのは初めてという人がほとんどでした。そこから始まった練習。「第九」の解説から始まり、発声はもちろんのこと、ドイツ語の発音を学びながら、パート毎、地道な練習を積み上げてきました。

11月も終わりの頃、やっと、宮城大をはじめ、宮城学院大、白百合学園、一般の方で編成された楽団と合同練習ができるようになりました。練習は前日まで続きハードでしたが、憧れだったオーケストラとの共演はとても楽しい日々でした。

そしていよいよ本番、大勢の方が聴きに来てくださった中での合唱。苦難を乗り越え、やがて歓喜へと…被災地の方々へ思いを巡らせ歌い切りました。感極まる思いで一杯でした。

（後援会副会長　今井美紀子）

▲合唱、演奏、総勢400人による大合唱団＝12月18日、大和キャンパス中央階段


記事一覧
●2・3面…主催事業「宮城大学と保護者の集い」、シリーズ「絆」、コラム
●4・5面…大学祭、合同企業説明会（学内）、首都圏企業説明会
●6面…インターンシップ報告会、「教員からの一言」、卒業式案内、一日警察署長、終身会員案内

## 平成23年度（第15回）入学式

# 半年遅れの式典、改めてかみしめる喜び

震災の影響で中止となっていた平成23年度入学式が、約半年遅れの9月24日、大和キャンパス講堂で行われました。

4月は震災直後で入学式が行える状況ではありませんでしたが、前期の授業を無事に終えた9月、教職員の努力と学生や保護者の協力のもと、新入生にとって節目となる入学式を行うことができました。

当日は、好天に恵まれ、ほとんどの新入生が参加するとともに、多くの保護者の皆さまに参加していただきました。

式では、西垣克学長が「単に震災の影響により遅れた入学式とは考えず、この尋常ではない状況下にこそ思索が必要であり、未来を見据える洞察力が求められています」と式辞を述べ、新入生を激励しました。また、急な開催にも関わらず、村井嘉浩県知事をはじめ、畠山和純県議会議長、浅野元大和町長、沖野佳秀後援会長に出席いただき、祝福の言葉をいただきました。

新入生の学部を代表して、看護学部の今野栞里さん、大学院を代表して、事業構想学研究科の今野亮介さんが、入学式が開催されたことへの感謝の気持ちと、ボランティア活動に寄せる意欲など、今後の抱負を述べました。

式典後、今年で途切れてしまうのではと心配された、伝統の大階段での記念撮影が学部ごとに行われました。

（事務部学務課　菅原隆之）

## 災害ボランティア活動 ～宮城大学の取り組み～

# 求められる支援を

4月から活動を開始した本学のボランティア活動は、延べ人数で11月末日現在、学生だけで692人、教職員を含めると887人にも上っています。7月以降は、被災地におけるボランティアのニーズも瓦礫撤去、泥出し作業などから、コミュニティ形成支援や事業再開に向けての支援などへと変化しておりますが、継続的な支援が必要とされています。

この夏も学生たちは、休暇を利用し、南三陸町での傾聴ボランティアへ延べ89人、亘理町でのイチゴビニールハウスの建設支援へ延べ60人が従事しました。また、個人的にも故郷の復興のために、それぞれの想いを胸にボランティア活動を行っていました。

震災から8カ月、この期間のボランティア活動を通じて、学生は大きく成長しています。活動を始めた当初は、汗をかき、体中に泥をつけながらひたむきに活動することで宮城の復興に貢献してきました。そして今は、どんな支援が必要か、何をすべきかを学生自らが考え、ボランティア活動を計画、実行しています。さらに、これまでの活動を記録し、次回の活動へ生かす工夫もこの夏から始まっています。

そこで、大学では学生の自主的なボランティア活動を支援するため10月に「学生ボランティア取扱規程」を制定しました。また、10月26日（土）、27日（日）には、これまで3回合同でボランティア活動を行った兵庫県立大学との合同シンポジウムが神戸で開催され、学生も8人が参加し、これまでの活動の報告と意見交換を行ってきました。

学生の皆さんが、被災地のニーズにマッチし、これまでの経験と本学の特性を生かせる的を絞った活動で更に成長することを期待したいと思います。

（事務部学務課　佐藤憲治）

▲活動前のミーティング

---

コラム　持続可能なまちづくりの時代 ②

## 「心の再生・森の再生・地域の再生」

事業構想学部教授　博士（工学）風見正三

東日本大震災から8カ月が経過し、各自治体では様々な震災復興計画が策定されていますが、被災地をめぐる生活環境や経済環境は未だ厳しい状況が続いています。今回のコラムでは、こうした状況の中で、私が関わっている震災復興支援活動をご紹介致します。

皆さん、C.W.ニコル氏という環境活動家をご存じでしょうか？英国ウェールズの出身で、作家、環境活動家として日本を中心に活躍している方です。ニコル氏と財団は、長年、日本の森林再生に取り組んでおり、長野県の黒姫をフィールドに、荒廃した森林を再生し、アファンの森を創り上げてきました。今回の大震災に際して、ニコル氏から、東北の復興のために、まずは、被災地の子供達の心を癒したいというご提案があり、被災地の子供達や保護者の皆様を長野県黒姫のアファンの森にお招きし、森の癒しを体験して頂く「心の森プロジェクト」を実施致しました。本学も後援や共催として協力し、東松島市、仙台市で実現に至りました。

英国のウェールズでは、石炭産業の発展によって豊かな森を消失し、災害によって多くの命が失われた反省から、国としても森林再生事業を進めてきました。アファンの森は、まさに、ウェールズの森林再生のシンボルであり、黒姫のアファンの森はその姉妹森として認定されています。ニコル氏が長野を訪れた頃、黒姫の森も植林と土木事業によって健全な森の機能を失ってきており、ニコル氏と財団は、長い歳月をかけて、これらの森を買い取り、多様な生物が生息する豊かな森に再生させてきています。

復興のための森の再生プロジェクト（アファンの森）
C.W.ニコル・アファンの森財団
http://www.afan.or.jp/

東北は多様な森林文化を有する地域であり、本プロジェクトは、アファンの森で森の生命力に触れた子供達が東北の森を再生していく原動力となって頂くことを願い、立ち上げた活動です。地域の再生は、森の再生、心の再生から。大震災を超えて、東北の豊かな森林文化を見直し、森と共に生きる豊かな暮らしを実現していくことが私の願いです。


（かざみしょうぞう）
1960年生まれ。博士（工学）、技術士（都市及び地方計画）。日本大学大学院修了後、（財）日本ダム協会研究部、大成建設株式会社、タイセイ総合研究所等で全国の都市開発事業やまちづくりの調査研究に携わる。1991年、英国ロンドン大学大学院に留学し、理学修士、経営学修士を取得。帰国後、東京工業大学大学院総合理工学研究科環境理工学創造専攻博士後期課程を修了し、2008年4月より現職。

# 後援会役員と学生代表が意見交換
# キャンパス間交流で情報交換を

後援会では学生への支援を充実させるために、毎年、役員と学生代表の意見交換会を行っています。今年は学生の意見を新年度の事業計画に反映させようと、例年6月だった開催時期を11月に移し、10日に大和、17日に太白とそれぞれのキャンパスで開催されました。

始めに学生会の各委員会から活動状況が報告され、その後、学生の要望や質問に対して質疑など意見が交されました。

大和キャンパスでは、執行部から今年度学生会誌を創刊したことや、太白キャンパスとの交流会を企画していることなどが報告されました。そのほか、新入生歓迎委員会を改編しイベント関係の委員会の設立を検討しており、来年度以降の支援につて要望がありました。役員側からは、ぜひ、太白キャンパスとの交流を進めてほしいとの意見が出されました。学生会やサークルへの助成については、学生会からの要望を踏まえ予算編成を行うので、具体的な要望を提出するように意見が示されました。

学生からの要望には大学にかかわることも多数出され、大学からは可能なものは早急に実施するとの回答が有りました。

太白キャンパスでは、学生会活動を行う学生が少なくなっていることが話題となり、役員側からは、大学祭実行委員会と連携して、組織の強化を図ってはどうかとのアドバイスがありました。ほかに、学生会と大学祭実行委員会からパソコン購入の要望が出され、後援会で検討はするが、具体的な購入計画について要望書を提出するよう意見が述べられました。

後援会では、今後も学生の意見・要望を聞きながら、学生を支援してまいります。また、大学への意見・要望についても、必要に応じ、共に大学へ要望するなど充実したキャンパスライフとなるよう応援していきたいと思います。

（会計書記　菅原隆之）

▲キャンパス毎に行われた意見交換会（㊤太白）

## 絆 KIZUNA 5

今回ご紹介するのは、本学事業構想学部に在籍する阿部美沙都さんのアメリカ留学体験記です。阿部さんは3月の東日本大震災で家や友を失うという深い悲しみを体験しました。そこから前へ進もうと立ち上がり、留学に挑戦する阿部さんからのメッセージをお届けします。

## 〝Take life one day at the time〟

事業構想学部3年　阿部美沙都

震災で家を失ってしまった大学生が、アメリカの大学へ留学できると誰が予測できたでしょうか。しかし、その素晴らしいことが現実に起こっています。

私は今、アメリカ合衆国のアーカンソー州立アーカンソー大学フォートスミス校に留学しています。大学や地域の方々で積み立てられた奨学金のおかげで、ここに来ることができました。

私の地元は宮城県の南三陸町で、津波で家や友人を失いました。家族は全員無事でしたが、留学できる経済状況ではありませんでした。そんな時、この奨学金制度を知り「震災を経験した私だからこそ感じることのできる思いを伝えたい」という思いから留学を決意しました。

それから4カ月。最初は自分の英語力の乏しさを痛感するばかりの辛い時期でした。3カ月程経ったある日、奨学金を寄付してくださった方が400人程集まる会で、スピーチをする機会がありました。精一杯話し、会場からたくさんの拍手をいただきました。震災の想いや、今日がある感謝の気持ちを伝えることができ、とても幸せに思った瞬間でした。

今は毎日が発見の連続です。アメリカの大学の課題の多さに戸惑ったり、宮城大生の勤勉さを改めて感じたりといろいろですが、刺激のある日々を楽しんでいます。

私には留学で目標が3つあります。

一つ目は、たくさんのことを経験すること。他州への旅行や出会った人たちとの会話など、ここでしかできない経験を積み重ねたいと考えています。

二つ目は、英語の表現力を磨くことです。スピーチや、スピーチコンテストに積極的に挑戦したいと考えています。

三つ目は、ここに来た証を残すことです。そのために他の留学生と協力してプロジェクトを立ち上げようと考えています。日本文化の要素を交えたワークショップを通して、人々の心に感動を残すことができれば嬉しいです。

〝Take life one day at the time〟〝一日一日を大切に〟という意味の言葉があります。この言葉を心に刻み、支えてくださる方々に、そして命あることに感謝し、たくさんのことを学で帰りたいと思います。生きるはずだった友の分まで。

そして何より、大変な時に私のやりたいことをやらせてくれた両親に心から感謝したいと思います。

▲大学近くの教会で、中学生に日本語を教えている阿部さん。
休憩時間には居合わせた子供たちともすぐ仲良しに。

MYU Fes’　2011・10月9日、

# 笑ってeatも!! 大成功　―太白―

今年の大学祭は震災後ということもあり、いろいろ準備に手間取りましたが結果的には成功しよかったと思います。

昼のイベントは去年よりも多くの来場者で賑わいました。特に「どきどきバルーン」というゲームでは笑いが絶えず、楽しんでもらえたと思います。三年生や四年生の先輩によるＡＫＢ48やＫＡＲＡ、少女時代のダンスの出し物も会場をおおいに盛り上げてくれました。そして最大のイベント、お笑い芸人キングオブコメディーのライブは、チケットが完売になり慌てて手書きでチケットを作るほどたくさんの方にご来場いただきました。

毎年食産ならではと評判の模擬店は去年同様の賑わいでしたが、準備不足のせいもありますが、食産業学部らしさをもう少し出せたらと思いました。

今年は大学祭実行委員も裏方だけではなく、舞台に上がりマルモダンスを披露するなど、来場者の皆さんと一緒に楽しむことができました。来年は今年の反省点を生かし、今年のものとはまたちょっと違った太白キャンパスの学祭となるよう後輩たちに期待したいと思います。

（太白キャンパス大学祭実行委員長
フードビジネス学科２年　本田　亘）

▲“Welcome!”私達実行委員がご案内します

▲裏方もマルモダンスを披露

▲笑っていいモチ～！

▲３・４年生もダンスで参戦？…参加です

## ◆首都圏大規模企業説明会参加
# 事業構想学部にも導入、就活意欲へ弾み

12月17日、パシフィコ横浜で行われた国内最大規模の合同企業説明会「マイナビＥＸＰＯ」（株式会社マイナビ主催）に事業構想学部64人、食産業学部55人の合計１１９人の３年生が参加しました。

当日は各業界を代表する企業が１００社以上参加、訪れた学生は３万人で、東北では類の無い大規模な説明会でした。会場周辺には入場を待つ学生で長蛇の列ができました。本学は、後援会の支援により貸し切りバスを利用したため、専用口からの入場となり、学生は一般の学生より余裕を持って会場入りすることができました。

今回、県内では聞くことのできないさまざまな企業の説明を受け、首都圏をはじめとする意識の高い他大学の学生と一同に会したことが、学生にとってとても良い刺激となったようです。参加した学生からは「仙台では聞けない企業の話を多く聞くことができた」「他大学の学生に圧倒されそうになったが負けられないと思った」「今後の企業選択のよい機会になった」「志望業界の幅が広がった」「これからの就職活動への気合いが入った」などの意見が聞かれました。日帰りバスツアーという強行スケジュールでしたが、学ぶものは多かったようです。

雇用状況は依然厳しいままです。これを機に、就職活動に対する意識を高め、長く厳しい就職戦を乗り切ってほしいと思います。

（事務部学務課　管原隆之）

事業構想学部

食産業学部

▲長旅の疲れも見せず、説明会に臨んだ119人

# 10日で両キャンパス同時開催

## 発信し続けた希望の光　―大和―

▲東日本大震災支援のための募金箱

▲夢の世界へ Gate in ！

▲大学祭のマスコット、MYU（みゅー）君です。カワユイ♡

今年の大学祭も多くの方のご支援、ご協力により無事成功を収めることができました。今回は震災の影響もあり、準備段階で何度も困難に直面しました。しかし、実行委員一同の学祭成功に向けた強い思いと、一緒になって大学祭を作ってくれる学生達のエネルギーを軸にして、幾度となくそれを乗り越えてきました。

そして迎えた学祭当日、好天にも恵まれ、たくさんの来場者で賑わいました。毎年恒例のお化け屋敷を始め、どの企画も大盛況でした。中でも被災地へメッセージを届ける企画では多くの方々が足を止め、今回の震災に対する関心の高さが伺えました。

そして、学祭の最後を締めくくった打ち上げ花火には大きな歓声と拍手が沸きました。ここで生まれた溢れんばかりの笑顔は、これまでの苦労を吹き飛ばすほど輝かしいものでした。

来年再来年と続く宮城大学の学祭にぜひご期待下さい。年を重ねるごとに深みが増していく大学の魅力、そして大学祭でしか味わえない雰囲気をもって、皆さまをお迎えします。お楽しみに!!

（大和キャンパス大学祭実行委員長
事業計画学科２年　夏谷友樹）

▲夜のステージ最高!!

▲イケメンバンド

▲被災地へメッセージを届けよう

▲景品の抽選会 栄冠は誰の手に？

▲デ情の学内展示

▲ナースのお気に入りは K-POP ダンス

# 3年生、就活に向けていよいよ始動

## ◆事業構想学部・食産業学部合同企業説明会開催
## 地元企業中心に41団体招く

12月7日（水）、大和キャンパス体育館で就職活動支援の一環として、事業構想学部、食産業学部合同の企業説明会を開催しました。地元企業を中心に41団体を招き、両学部3年生および研究科1年生の合計293人が参加しました。

学生は、企業の人事担当者の話に真剣に耳を傾け、熱心に質問をするなど、これからの就職活動に向けて、大変意欲的に取り組んでいました。参加した企業からは、本学の学生は明朗で真面目、かつ積極的、と大変高い評価をいただき、本学に寄せる期待の高さが伺えました。

倫理憲章（注）の関係で、学生は例年より短い期間での活動を強いられますが、一人ひとりが納得のいく進路を見つけられるよう教職員一同全力でサポートしてまいります。

（事務部学務課　千田敏恵）

（注）企業倫理憲章：新卒者の採用活動に関するガイドラインで、公平・公正な採用の徹底、採用選考活動早期開始の自粛、採用内定日の遵守などを定めている。2011年3月15日の改定で、広報活動開始時期について12月1日以降に開始するとされた。

▲企業の説明を受ける学生

▲41団体のブースが設けられた大和キャンパス体育館

宮城大学後援会報 vol.36 | 平成23年12月30日発行 | 編集・発行 宮城大学後援会事務局

## 事業構想学部インターンシップ
# 3年生も対象 専門性活かし単位化

今年度、事業構想学部のカリキュラムに3年生を対象とした「インターンシップⅡ」が加わりました。この科目は、学生が自主的に企業などの主催するインターンシップに参加した場合、単位を認定するものです。研修を受けるには、事前の企業による選考を勝ち抜く必要があります。しかし、専門性が活かせ、就職につながるまたとない機会であり、積極的に挑んでほしいと思います。

一方、従来の2年生を対象とした「インターンシップⅠ」は、東日本大震災の影響により、研修生の受け入れが困難な県内の企業もありましたが、企業窓口担当の先生方の努力によって幸いにも研修先が確保できました。

そして、10月の報告会では、国内で研修した96人、国外で研修した4人が研修の成果を発表し、昨年の85人を上回る参加人数になりました。

また、11月には、学内において公開報告会を開催し、沖野佳秀後援会長にもご出席いただきました。代表者4人と1組の充実した発表、聴衆から質問もあり、外は泉ヶ岳の初冠雪の便りも聞こえる寒さでしたが、会場は熱気に包まれていました。

（事業構想学部インターンシップ担当　助教　相模誓雄）

▲ 報告会で発表する代表

## 教員からの一言
# 「ソーシャル・ネイティブ」の時代
## ――ネットワークが生み出す新たな人と人とのつながり

事業構想学部教授　藤原正樹

聞き慣れないタイトルに、とまどわれた方もおられると思います。ソーシャル・ネイティブとは、物心ついた頃からツイッターやミクシー、フェースブックなどのソーシャルメディアを使いこなしている若者を指す用語です。今の大学生がその世代だといえます。

ソーシャルメディアは、人と人とのコミュニケーションのカタチを大きく変えつつあります。私自身もそれを実感したのは震災の直後からでした。被災地の生々しい情報を外部に伝える上で重要な役割を果たしました。特に重要なのは、人と人とのつながりを生み出しているという点でしょう。一人一人が情報発信者になり、新しいコミュニケーションが可能になりました。また、ソーシャルメディアを活用したサービスや商品も続々と登場しつつあります。

ソーシャルメディアを自在に使いこなす世代が世の中の主流になったら、世界はどのように変わっていくか？これから壮大な実験が始まりつつあります。

# 卒業式のご案内

**来春卒業予定の学生・ご家族の皆様へ**
**平成23年度宮城大学卒業証書・学位記授与式を挙行します**

■日時：平成24年3月16日（金）
　受付　午前9時開始
　式典　午前10時～11時30分頃
■場所：大和キャンパス講堂

大震災を乗り越え晴れて卒業を迎える学生の皆さんを、教職員一同、ご家族の皆様と共にお祝いしたいと存じます。どうぞご出席ください。

式典の詳細は、大学のホームページに掲載しておりますのでご参照願います。
（URL: http://www.myu.ac.jp/）

なお、式場内の座席数は限られているため、満席となった場合は、式場外のモニターでご覧いただくことになりますので、あしからずご了承ください。

宮城大学事務部学務課
☎ 022（377）8218

# 宮城大生大和警察署「一日署長」に就任

大和警察署が年末年始に行う特別警戒取締の出動式が、12月15日、同署で行われ、今年の10月から大和警察署協議会委員に委嘱されている、本学事業構想学部2年髙橋絢子さんが一日警察署長を務めました。

# 後援会終身会員制度のご案内

後援会では保護者の方々が、学生の卒業後も宮城大学を支援する終身会員制度を設けています。

卒業生の保護者の皆さまの希望によりご加入いただくものですが、これまで多くの卒業生の保護者の方々に入会いただき、在校生の保護者の皆さまと共に、大学を支える大きな力となっています。

会員の方には年3回発行の後援会報、大学及び後援会主催事業の御案内を20年間送付致します。

大学間の生き残りをかけた競争が激化する中、また今年は未曽有の大震災にも見舞われ、自主自律の運営を目指す宮城大を、更なる充実した支援で、物心両面から支えてまいりたいと考えております。

今年度卒業を予定されている保護者の皆さまには、新年改めて御案内いたしますので、何卒、制度の趣旨を御理解いただき、多くの方に御賛同いただきますようお願い致します。

（後援会事務局）

## 編集後記

今年を象徴する漢字に「絆」が選ばれました。失われたものがあまりに大きく、そこから立ち上がる為には、人と人とのつながりである「絆」が、最も必要で、大切だった事を、誰もが再認識したからではないでしょうか。

奇しくも、本誌でも昨年から「絆」と題し、宮城大でつながり、広がる人の輪を、シリーズでご紹介しています。これからも、目に見えない「絆」を少しでも活字に表わしお伝えしていこうと思います。

皆さま、どうぞ希望の新年をお迎えください。

S・I

〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
公立大学法人宮城大学　学務課学生グループ内
TEL：022（377）8381
FAX：022（377）8282
E-mail：kouenka@myu.ac.jp
URL：http://www.myu.ac.jp/~kouenkai/